

【めざす生徒像】

『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒

【社会の創り手となる生徒の育成】

『礼節』 礼儀と節度を守る生徒

【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】

『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒

【多様な人々と協働できる生徒の育成】

【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。



夜には秋の虫たちが鳴き始め、秋らしい心地よい風が吹き、少しずつ季節の移り変わりを感じるようになってまいりました。一雨ごとに気温も低下し、校舎の周りの木々の様子も少しずつ変わっているようです。

さて、10月は学校にとって文化発表会など大きな行事もあって、大変忙(せわ)しない時期であることと、季節の変わり目ということもあります。健康管理のため、お子様の保護者の皆様には基本的な生活習慣の徹底をお願いします。

地球の危機 ～ 地球沸騰化の時代 ～

9月下旬まで気温が30℃を超える日が続きました。周りからは「昔はこんなに暑くなかった。」「これほどの大雨を経験したことがなかった」という声をよく聞きます。

2023年7月、世界の平均気温が観測史上最も高くなる見通しを受けて、グテーレス国連事務総長が記者会見で、“*The era of global boiling has arrived.*”「地球沸騰化の時代が到来した」と発言しました。さらに「これこそが気候変動で、恐ろしいことだ。そしてこれは始まりに過ぎない」とも発言していました。もちろん実際に地球が沸騰しているわけではなく、地球の危機的な状況を伝えるために使った言葉だと思われます。しかしながら、この夏の異常気象をみると、地球沸騰化という言葉がまさに当てはまるようです。記録的な猛暑が続き、各地で40℃を超え、熱中症警戒アラートは連日のように発表されていました。

今年は6月から各地で気温が高く、7月には北海道でも40度近くになるなど危険な暑さが続きました。8月も危険な暑さが続き、30日、31日も40℃以上を観測するところがありました。9月に気象庁が2025年夏(6～8月)の日本の平均気温について発表しました。この夏の平均気温の基準値(1991～2020年の30年間の平均値)からは2.36℃高く、1898年に統計を取り始めて以降、これまでで最も高かった去年と一昨年を大幅に上回り、今年の夏は「異常な高温」だったとしています。

消防庁によると、今年5月～8月の熱中症の搬送者数が北海道や東北中心に大幅に増加しており、特に北海道では前年度比1.71倍となったそうです。また、多数の方が熱中症によって亡くなっています。来年度以降も引き続き大切な命を守る行動をとる必要があります。

気温上昇による気候変動は、私たちの生活や生態系にも大きな影響を及ぼしています。たとえば、私たちの主食であるお米への影響です。高温が原因とする品質低下(高温障害)、収穫量の減少などが問題となっています。暴風や水害などによる被害も甚大なものとなっています。

地球温暖化が続くと海面上昇がおこります。海面の水位が1mぐらい上昇すると、砂浜の9割ほどが失われてしまう可能性があります。人が安全に住める場所や、農地が不足してしまったりすることにもなります。



学校の図書室にある「異常気象」
～地球温暖化と暴風雨のメカニズム

日本は自然災害の多い国です。全世界の災害で受けた被害金額の17.5%が日本とされています。地震以外にも、大雨や大雪、火山の噴火などさまざまな自然災害が起こりやすい国です。しかし、これから地球温暖化がさらに進むと、もっとたくさんの自然災害が起こるかもしれません。地球温暖化は、私たちの生命や生活に多大な影響を与える問題であり、早急な対応が必要です。

地球温暖化の原因は、地球を覆う温室効果ガスが増えたことです。日本で排出される温室効果ガスの9割が二酸化炭素です。だから、できる限り二酸化炭素の排出量を少なくするのがポイントです。そのために私たちは、①節電を心がける ②食品ロスを減らす ③物を大切に使うなど、日頃から意識して取り組むことが大切だと言われています。

私たちの大切な地球と人類の未来のために、地球温暖化について考え、一人ひとりが今できることから始めていきましょう。